



ボランタリーネイバーズが実施した「中小企業診断士による NPO 支援キックオフミーティング」より

## 経営診断のプロ中小企業診断士のスキルは NPOの支援にも活用できるかを考える

渡邊 弥里 (ボランタリーネイバーズ理事)

- 経営コンサルタントの国家資格である「中小企業診断士」。その資格を維持するためには、5年間で一定以上の中小企業への実務従事を行うことが必要です。2019年7月31日から、その対象がNPO法人にも拡大されました。
- 中小企業診断士にとっては、NPO法人の支援という新たな活躍の場が生まれるとともに、NPO法人にとっても、経営に関する専門性を持った支援人材の登場という、双方にとって有益な「何か」ができる可能性を感じます。一方で、これまであまり接点のなかった両方で「何ができるか？」は曖昧模糊としています。
- そこで11月14日(土)にお互いの事業・活動に対する理解を深め、中小企業診断士によるNPO支援プログラムを実現するためにキックオフミーティングを開催しました。

### 診断士ってなに？NPOってなに？

○第1部では、そもそも中小企業診断士やNPO法人がどんなもので、何をしているのかを知るために、それぞれの活動概要について発表をしました。



- 中小企業診断士については、中小企業診断士であり「愛知県中小企業診断士協会 あいち企業内診断士の会」会長の加藤さんから、
  - ・資格を取得するために、人事やマーケティング、生産・IT、財務会計など多岐にわたる試験に合格する必要があり、経営全般の知識を修得している。
  - ・他の士業と違い共通の専門分野を持ってはいないが、個々の中小企業診断士により得意分野がある。
  - ・まずは中小企業診断士に相談をすることで、事業の課題を整理して他の機関や士業と連携しながら、ワンストップで課題解決に取り組める。
  - ・中小企業診断士のうちプロコンサルタントは約4割であり、5割弱は民間企業や公的機関等に勤めている「企業内診断士」であること。
  - ・企業内診断士にとっては、お金よりもスキルアップや経験を得ることが重要であること。修得したスキルを活かしたいという思いがあり、スキルを社会貢献に活かせることは魅力的であること。
 などの説明がありました。
- NPO法人については、ボランタリーネイバーズの中尾と渡邊から、
  - ・NPOと企業の制度的な違いはあるが、組織運営など共通する部分があること。一方で、NPOにとってはミッションが最優先であり、不採算事業だからと言って切り捨てられないこと。
  - ・また、活動計算書をもとに事業収益や会費、寄付金、助成金など、企業に比べてNPOの収入構造は多様であること。企業と違い定量的な評価指標が確立されていないこと。
 などについて説明をしました。

## NPO支援の可能性を考える

○第2部では、わっぱの会さんとアダージョちくささんをゲストにお迎えして、それぞれの活動紹介を交えながら、中小企業診断士によって、どのようなNPO支援ができるかを深掘りしました。

○わっぱの会さんからは、これまで運営されてきた共働事業所などの事業のほか、新しい展開として、ソーネ OZONE での地域交流の場を創出する取り組みをご紹介いただきました。

○また、大曾根商店街にクラフトビールの醸造所・パブレストランや無農薬自家製栽培の愛知県産ブランド小麦を使ったパン製造・販売店の出店を予定しているほか、地域生協の設立準備として地域課題の調査をされているなど、より地域に根差した事業展開を検討されているとのことでした。

○これに対して中小企業診断士から、大曾根商店街への出店の進め方、地域課題の調査でのアンケートに関する質問を投げかけながら、出店時の市場調査や広報戦略の立案などの支援の可能性について提示されました。

○アダージョちくささんは、組織基盤の強化に取り組みされており、中長期的視点で法人活動を検討する必要性や、職員のスキルが福祉に関する専門性は高い一方で、経営・事務に関する専門家が不足していることなどが課題であるとのことでした。

○中小企業診断士からは、課題を整理し対策を提案していくという、実際に診断・コンサルティングに入る際の進め方を解説しながら、中長期視点での法人活動について、課題や対策を、3～5年の中長期計画（経営計画）に落とし込み、定期的に進捗を確認しながら進めていくことや、人材育成については、将来的なキャリアを意識しながら職域別研修の実施などが例示されました。



## 中小企業診断士は「かかりつけ医」

■中小企業診断士は特定の専門分野がないことから、他の士業に比べて、どのようなときに中小企業診断士に相談をすれば良いのかイメージしにくい資格です。日ごろから企業の経営状態を把握し、必要に応じて他の専門機関や士業と連携して経営改善につなげる。そんな中小企業診断士の役割を説明する際に「中小企業のかかりつけ医」というフレーズが使われます。NPOにとっても、「ちょっと体調が悪いかも？」というときに、気軽に相談をできる身近な存在に中小企業診断士がなればと思います。

■このイベントを通じて、NPO支援と中小企業支援には共通する部分が多くあることがわかりました。一方で、収益性・効率性を重視する企業に対して、NPOを支援するにはミッションが重要であることを理解する必要があり、中小企業診断士にも視点を切り替えることが求められること。また、中小企業の経営指標をそのままNPOに適用できない部分があるため、この点をどう補うかなど、中小企業診断士がNPOを支援する際の課題も見えてきました。

■今回の企画にあたっては、愛知県中小企業診断士協会の皆さまや名古屋市市民活動推進センターの皆さまに多大なるご協力をいただきました。今後は、中小企業診断士がNPO支援に入る際の効果や課題を検証するために、実際にNPOのコンサルティングをするプロトタイプ事業を展開していきます。NPOと中小企業診断士との新しい出会いをより良い社会の創出につなげられるよう、これからも様々な方と協働しながら取り組んでいきます。

★ボランティアネイバースでは、中間支援組織・NPO向けの研修を、テーマ・回数などご相談に応じながら実施しています。お気軽にご相談ください★